



2019-20 年度テーマ

第 2670 地区

# 宿毛ロータリークラブ会報



■会長	小栗 学
■幹事	保田 孝司
■SAA	吉尾 航
■クラブ奉仕委員長	高瀬 一也
■職業奉仕委員長	東 豊喜
■社会奉仕委員長	西田 教世
■国際奉仕委員長	岡崎 利久
■青少年奉仕委員長	竹葉 良仁

■例会日	: 毎週木曜日 12:30~13:30
■例会場	: 宿毛市幸町 秋沢ホテル
■事務所	: 〒788-0003 高知県宿毛市幸町 6-43 TEL 0880-63-3416 FAX 0880-63-3417 URL <a href="http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/">http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/</a> E-Mail <a href="mailto:sukumorc@mb.gallery.ne.jp">sukumorc@mb.gallery.ne.jp</a>

## 例会報告 第2663回 令和元年7月18日(木曜日) 天気:雨

- 例会司会: 吉尾SAA
- 開会点鐘: 小栗会長
- Rソング: 奉仕の理想
- お客様: 野村茂様(高知第II分区ガバナー補佐)

### 四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

### ■会長報告 小栗会長

野村ガバナー補佐、今日はありがとうございます。7/12松村会員のお母様が亡くなりまして、会長、また会員の皆様にもご葬儀に出席いただきありがとうございました。会長と幹事のタスキが新しくなりました。

### ■幹事報告 保田幹事

- 四万ロータリークラブより:
  - ・週報
- ロータリー囲碁同好会より:
  - ・第18回ロータリー全国囲碁大会のご案内
- 米山記念奨学会より:
  - ・ハイライトよねやま

※例会終了後 クラブ協議会を行います。

欠席届 7名

### ■プログラム 竹葉会員

卓和 高知第二分区 野村茂ガバナー補佐



ただいまご紹介を賜りました高知第二分区ガバナー補佐の野村茂と申します。よろしくお願いたします。8月にガバナーの公式訪問がございまして、その二週間前に色々お話を聞きに来ました。少し自己紹介をします。職業分類は一般高圧ガスの製造となっております。宿毛の西南工業団地の中に宿毛工場がございまして、そこで酸素ガスの製造販売を行っています。昨晚こちらに来て宿毛を楽しみました。今日の朝、時間があつたもので元会員の小八木さんのところに訪問して、仕事ではありましたがご挨拶をさせていただきました。先程、会長幹事懇談会で色々話をさせていただきました。私は平成8年に高知RCに入会させていただきました。今年で24年目です。高知RCで幹事会長を経験したのちに、色々な委員長をさせていただいて、会員の方々と色々な話をする機会が多くなりました。その際に感じたことですが、ロータリーの会員と

して情報やその仕組みなどを正確に伝えられているか、クラブの伝統というものを継承するにはどうすればいいかということ深く考えるようになりました。今回、ガバナー補佐を仰せ付かった事で自分自身がロータリーについて、もう一度幅広く勉強しなおす機会をいただいたと思っています。ロータリーの友に例会出席の大切さについて書かれていました。例会を通してロータリー精神を学び、その精神を持って社会に奉仕することの重要性を説いたものです。今回はガバナーの方針施策を皆様にお伝えしガバナーと各クラブとのパイプ役としてお手伝いしてまいります。

2019-2020年度国際ロータリー会長マーク・マローニー会長のテーマは、『rotary connects the world』、『ロータリーは世界をつなぐ』という言葉です。ロータリーの存在が今まで出会うことのなかった人々と、職業上の機会そして私達の支援を必要としている人々との繋がりをもたらしてくれます。というのが正式なテーマの解釈であります。マローニー会長はロータリーの礎は「つながる」ことだと話しています。若い弁護士としてシカゴにやって来たポール・ハリスがロータリーを創設した最大の理由、それは見知らぬ街でほかの人たちと「つながる」ことでした。それから1世紀以上経った今、私たちの周りには、ポール・ハリスの時代には想像もできなかったような友情とネットワークを築くための方法が数多く存在します。それでも、ロータリーにおける「つながり」は独特であり、ほかに類を見ません。マローニー会長の言葉の中には是非とも皆様にお聞きいただきたい言葉があります。『2019-20年度、ロータリーは新しい戦略計画を実行に移し、規定審議会が採択した革新性に応え、より活性化された重点分野において活動します。しかし、ロータリーの未来を形作る本当の場所はクラブです。刻々と変化する現実に対応するために、ロータリーはクラブに注力していかなければなりません。クラブはロータリーでの経験の中心部ですが、今ではクラブのあり方をより創造的かつ柔軟性をもって決めることができます。これには例会の方法や、何をもって例会とするかを検討することも含まれます。会員増強のアプローチにおいては、組織立った戦略的・革新的な方策が必要です。そうすることで、地域社会とのより広く、深いつながりができるだけでなく、より多様な会員に魅力を感じてもらい、積極的な参加を促すことができるでしょう。』

実際のところ、ロータリーは家族です。そうであるにも関わらず、会員組織の構造やリーダーシップの要求などがあることで、今日の若い職業人にとってはロータリーが手の届きにくい存在となっているようです。ロータリーは、家族との時間を犠牲にするのではなく、家族との時間を補うような経験を提供する場である必要があります。クラブが温かく、みんなを受け入れるような雰囲気があれば、家族と奉仕活動は両立でき、家族志向の若い職業人にロータリー奉仕や市民としての参加の機会を提供できます。また、ロータリーの役職に対する期待事項を、多忙な職業人にあわせて現実的かつ管理可能なものとする事で、将来ロータリーのリーダーとなる次世代のロータリアンのスキルを高め、ネットワークを築くことができるでしょう。』

RIというもの是非常に大きな変革を遂げておりますけれど、そういう風な一面をマローニー会長の言葉が表していると思っています。

第2670地区大島ガバナーの地区運営方針は『情熱と追求』となっております。英語で言うと『Passion』です。2016-17年度前田直俊バスターガバナーの地区スローガン『Passion』でした。『パシュート』追求という言葉はクラブ内での、地区での、そして地区を越えた活動を皆様方と共に探し求めていきたい

という大島ガバナーの強い気持ちが出ております。特に実現を目指したい項目としてはクラブ内での会員の立ち位置・居場所を見つけること、そして地区出向の勧めであります。大島ガバナーは国際奉仕の短期交換留学等に関しまして非常に造詣の深い方でして、そこに思い入れがあります。それぞれの地区のRCの中から本部役員として出向していただきたいという気持ちが強く現れております。具体的には会員増強、特にRI会長からの要請による女性会員の増強及び職業分類です。二番目はクラブ内での研修委員会の充実、三番目は青少年奉仕部門の更なる充実、四番目は青少年交換事業の継続とクラブの更なる充実と強固な危機管理対応策構築です。クラブ内での立ち位置・居場所に関しましては会員の皆様方のクラブ内での役割、果たすべき責任を明らかにする事により本人が活躍・躍動しクラブに地区に人材が育成されることによって現在の多岐にわたる活動の継続、そして会員の退会防止に繋がることが期待されます。大島ガバナーが今年の一月にカリフォルニア州サンディエゴで開催されました国際協議会に参加した時のRI関連の話としては、前年に続き、RIがもっとも重視している目標はポリオの根絶です。ポリオの撲滅の次となる大きな目標はロータリー平和フェローの継続要請だということです。ただ、マローニー会長が最初に述べた言葉はロータリーを成長させること、すなわち奉仕活動やプロジェクトのインパクトを強力なものにする。その為にもっとも重要な事として会員増強の勤めということでした。今回の国際協議会でも女性会員の増員が急務であると明確に強調されたそうです。またRIからはMyRotaryへの会員登録数を増やして欲しいと強い要請があったようです。ガバナーの2670地区の話としては長期交換・短期交換事業についてですが、これらは長きに渡って地区に浸透し素晴らしい実績を積み上げております。しかしながら長期・短期ともに危機管理の問題は常に重たい課題として現存しております。真摯に取り組む覚悟が必要であります。最近、ホームステイを受け入れてくれる家庭が非常に少なくなりました。色々な事情があるかと思えます。ご家庭の負担も増えてきておりますが、預かった生徒を無事に次の所に送り届ける事が最近では難しいと聞いております。そういう事を含めましてホームステイを受け入れてくれる家庭を少しずつ増やしたいという事で、危機管理というものに一步踏み込んだ判断をされたと聞いております。またロータリー財団、そして米山奨学金へのご寄付のお願いをしたいと言う事でもあります。米山奨学金の伝統の灯を消さない為にも金額の大小に関わらず会員の皆様のご協力を期待しております。

規定審議会は三年に一度開催されておまして、2019年が開催の年で世界中から地区の代表議員がシカゴに集まりまして4/14から4/18まで開催されました。2670地区からは1人、地区のバスターガバナーが出席されました。この審議委員会ではRIの細則と定款、そして標準RC定款への改正案やいろいろな手続き等が決定されるとも重要な会議です。そしてこの規定審議委員会で決議された内容を見ることでRIが今どのような方向へ向かおうとしているかを見ることが出来ると思っております。三年前の2016年に開催されました規定審議委員会ではクラブの運営に大幅な柔軟性を認める決定がされました。これらの決定には例会の頻度や場所、方法及び会員種類に関する変更が含まれています。例えば、クラブでは月に二回、何らかの方法で例会を行う限り、例会頻度を減らす事が出来ると言う事も含まれています。今年の規定審議委員会ではロータリーの未来を形作るいくつかの決定がなされております。RIとしては会員増強に大きな力点を置いているという事です。RCの世界の会員数は1956年に約40万人でした。そこから10年ごとに20万人ずつ増え続けました。1986年には100万人を突破し1996年には120万人になりました。その後、21世紀に入りまして120万人を越えたところで毎年多少の増減はありますがほぼ横這いの状態が続いております。日本はどうかと申しますと、1997年の13万2千人をピークに減少が始まっております。最近では約8万8千人から9万人です。インドでは会員が増加しており、日本とアメリカでは減少しています。会員数の減少が進んでいる地域でもクラブ数はそのままという所が多くて、クラブの小型化が進んでおります。クラブの平均会員数は約30名くらいです。クラブの増強というのは重要なことでして一番目にはロータリーの活動を継承しクラブの更なる発展の為にはとても重要なことです。二番目は新入会員はクラブの活性化をする、三番目はクラブや地区の経済的な地盤を確立するという事です。クラブ増強は常にロータリーの中では一番最初に出てくるテーマですが、なかなか進まないというのが現実問題です。RIとして会員の増強ということでクラブの入会等にハードルを下げてくる傾向になっております。それぞれのRCのクラブ細則というのがありますが、それでRCとして将来的にどのような方向に行くかという事を皆さんに真剣に討議をする時期だと考えています。会長幹事懇談会でお話をさせていただきましたが、宿毛RCとして今後どのような方向に行くかを真剣に討議していただきたいと思っております。

## ■出席報告

55. 56%

